

洛穂集

漫録

卷十五
卷十六

内閣文庫	
番號	和 34387
冊數	10 (3)
函號	170 77

内閣文庫	
番號	和 34387
冊數	10 (3)
函號	170 77

共十

第一



洛穂集卷之十五



本照君向洛河修造事

同
本照君向洛河修造事

本照君向洛河修造事

本照君向洛河修造事

本照君向洛河修造事

本照君向洛河修造事

本照君向洛河修造事

人乃其也止人然之身之極其以是乎
此法之定也其法之自中法也其法也
其事の事物の事の事の事の事の事の事
物の物物物物物物物物物物物物物物
乃事物の事の事の事の事の事の事の事
此法は法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也

同之其法也其法也其法也其法也其法也
此法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也
其法也其法也其法也其法也其法也其法也

是と云ふは相口者一町を以て作面也
以て石段を以て岸一乃其一段の石名
無碓と云ふは石段を以て成りし也
河川が所の本之形を以て其形は河川
橋を以て此上を以て其向て其形は
河川を以て其形は
本道地は石段の形を以て其形は
石段を以て其形は

了りて其形は石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は
石段を以て其形は

此書之書名又與山左相呼推系七之會
引是耶之書之入皆其之數百部之
博士の如之入之白源報之在定其之
是之了也其如之文之得相之入之
事之讀之之制之入之入之入之入之
改之官之如之入之入之入之入之
故之入之入之入之入之入之入之
乙卯之改之入之入之入之入之

事

同之入之入之入之入之入之入之
海之入之入之入之入之入之入之
是之入之入之入之入之入之入之
乙卯之入之入之入之入之入之入之
中法之入之入之入之入之入之入之
推系之入之入之入之入之入之入之
是之入之入之入之入之入之入之

可成不此新本時改入
法門殿の方々軍之記述
其年之得序以之故
本之誰此之
丹塔塔修
法門殿の計
詮類大平
可成不此新本時改入

今有者定一
法門殿
其年之得序
本之誰此
丹塔塔修
法門殿の計
詮類大平
可成不此新本時改入

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

一 虎定一 虎定一 虎定一

上ノ向ニテモ、其ノ如ク、河ノ下ニテモ、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、

其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、
其ノ如ク、河ノ下ニテモ、其ノ如ク、

此の度に入道されし人の事々二三人
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事

此の度に入道されし人の事々二三人
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事
御座り候事候事候事候事候事候事候事

功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也

功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也
功を發せしむるは其の功也

啓略に下りて其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の

旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の
旨を以て之を以て其の旨の如く之を奉りて其の

遷家新居居るの事とて細川公の討
別々下付侍等居るに心とて存行儀
の事とて御座り候に御座り候に御座り候
之に後細川公の御座り候に御座り候
端居御座り候に御座り候に御座り候
と御座り候に御座り候に御座り候
母居人の事とて御座り候に御座り候
何れ様の事とて御座り候に御座り候

七條公の御座り候に御座り候
之に御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候
御座り候に御座り候に御座り候

Handwritten text in a cursive script, likely a continuation of the text on the reverse side. The characters are densely packed and difficult to decipher due to the cursive style.

後徳貞卷之三十一

後徳貞卷之三十一
後徳貞卷之三十一

事

因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一
因事... 後徳貞卷之三十一

乃人名定く自一陳のうへに其の事下後之取扱の
下新法不可之疑心ありて之を唐律に依て之を
此等之由之有る所を以て其の所定之を察し其
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
了るる事ありて其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を

上其の事ありて其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を
其の所定之を察し其の所定之を察し其の所定之を

本道府府中御前之系御前
封内事

一
百五十一
本送屋所耐
百五十二
本送屋所耐
百五十三
本送屋所耐
百五十四
本送屋所耐
百五十五
本送屋所耐
百五十六
本送屋所耐
百五十七
本送屋所耐
百五十八
本送屋所耐
百五十九
本送屋所耐
百六十
本送屋所耐

百六十一
本送屋所耐
百六十二
本送屋所耐
百六十三
本送屋所耐
百六十四
本送屋所耐
百六十五
本送屋所耐
百六十六
本送屋所耐
百六十七
本送屋所耐
百六十八
本送屋所耐
百六十九
本送屋所耐
百七十
本送屋所耐

其ノ為人也其ノ為也其ノ志也其ノ人ノ志也其ノ
一者其志也其志也其志也其志也其志也其志也
中其志也其志也其志也其志也其志也其志也
此其志也其志也其志也其志也其志也其志也
有其在也其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也

乃其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也
其志也其志也其志也其志也其志也其志也

所由送有の多は因叔割生をりて
此の事は...
世より...
思ふ...
實...
と...
...
...

近江守御...
...

情事

同...
情...
...
...
...
...
...
...
...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、

至り人の後を以て己の徳を以て示す事
がうかゞと人の徳を以て己の徳を以て示す事
下は人の徳を以て己の徳を以て示す事
下は人の徳を以て己の徳を以て示す事
後人の徳を以て己の徳を以て示す事
白紙の徳を以て己の徳を以て示す事
後人の徳を以て己の徳を以て示す事
後人の徳を以て己の徳を以て示す事

明は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事
乃は徳を以て己の徳を以て示す事

下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居

下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居
下事録事及下事下の書名定居

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho) on two pages of an open book. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left on each page. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

乃城守の如く是計は清浄心は此の十九子あり
高僧の如く増進の如く高僧の如く高僧の如く
後世の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
一 高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く

法門殿高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
退却して高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く

高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く
高僧の如く高僧の如く高僧の如く高僧の如く

事多し味方し居るはたきしきしききき
身多し味方し居るはたきしきしきき
清心之悟り居るはたきしきしきき
紅心之悟り居るはたきしきしきき
如心之悟り居るはたきしきしきき
正心之悟り居るはたきしきしきき
正心之悟り居るはたきしきしきき
正心之悟り居るはたきしきしきき
正心之悟り居るはたきしきしきき
正心之悟り居るはたきしきしきき

蘭系之宅人割の宅割の宅割の宅割の宅割
如心之悟り居るはたきしきしきき
信之宅割の宅割の宅割の宅割の宅割
如心之悟り居るはたきしきしきき
如心之悟り居るはたきしきしきき
如心之悟り居るはたきしきしきき
如心之悟り居るはたきしきしきき
如心之悟り居るはたきしきしきき
如心之悟り居るはたきしきしきき
如心之悟り居るはたきしきしきき

城乃八月十五日の別封条に據るに年々
陸田屋より打取城の父母遺子に及ぶに
此の事と宅角の事との御事には
苟も御事と申すに御事と申すに
此の御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに

の事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに
御事と申すに御事と申すに

大坂... 喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...

御堂中村討陣之事

同... 大坂... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...
喉を傷つて... 喉を傷つて... 喉を傷つて...

人勝る物言九思去りて是は是れは是れは是れは
不問に事一物言隆に是れは是れは是れは是れは
乃常物言に事多し人勝る物言隆に是れは是れは
り勝る物言に事多し人勝る物言隆に是れは是れは
とて是れは是れは是れは是れは是れは是れは
是れは是れは是れは是れは是れは是れは
と物言人通通に是れは是れは是れは是れは
百人對するに是れは是れは是れは是れは

とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは
とて物言に是れは是れは是れは是れは是れは

城を以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を

十箇の如く信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を
一に以て信濃守の如く令官を以て領地を

其方の字を以てて世に於ては
一語の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事

其方の字を以てて世に於ては
一語の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事
其の事も之れ大に得て事

此の書は、
原書は、
明の初葉に、
在るに、
其の書は、
其の書は、
其の書は、
其の書は、
其の書は、
其の書は、

其の書は、
其の書は、
其の書は、
其の書は、

Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, covering the right page of the manuscript. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

Small handwritten mark or signature at the bottom left corner of the left page.

